

(資料3) 1年間に教育可能な専門医数の算出方法

【修正した試算：徳島大学グループ】		2015年徳島大学G 症例数 (A)	経験症例数 (B)	経験執刀数 (C)	徳島大G症例数/経験症例数 (A)/(B)
Ⅰ 外傷	上肢・下肢の外傷	583	25	3	23.32
	外傷後の組織欠損(二次再建)	12	0	0	0
	顔面骨折	240	10	3	24
	顔面軟部組織損傷	767	20	2	38.35
	頭部・頸部・体幹の外傷	189			
	熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷	102	5	2	20.4
	小計	1,893	60	10	
Ⅱ 先天異常	頸部の先天異常	5			
	四肢の先天異常	29	5	2	5.8
	唇裂・口蓋裂	34	5	0	6.8
	体幹(その他)の先天異常	21			
	頭蓋・顎・顔面の先天異常	112	5	2	22.4
	小計	201	15	4	
Ⅲ 腫瘍	悪性腫瘍	530	5	0	106
	腫瘍の続発症	8			
	腫瘍切除後の組織欠損(一次・二次再建)	98	10	2	9.8
	良性腫瘍	3341	75	16	44.54666667
	小計	3,980	90	18	
Ⅳ 瘢痕・ ケロイド	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	226	15	3	15.06666667
	小計	226	15	3	
Ⅴ 難治性潰瘍	その他の潰瘍(下腿・足潰瘍を含む)	509	20	3	25.45
	褥瘡	92	5	0	18.4
	小計	601	25	3	
Ⅵ 変性炎症疾患・	炎症・変性疾患	425	10	1	42.5
	小計	425	10	1	
Ⅶ 美容外科	手術	16			
	処置(非手術、レーザーを含む)	719			
	小計	735			
Ⅷ その他	その他(眼瞼下垂、腋臭症)	228	5	1	45.6
	小計	228	5	1	
指定症例の総計		7316	220	40	33.25454545
自由選択枠		973	+80	+40	
総合計症例数		8,289	300	80	27.63

現状ではこの5.8が教育可能な専門医を算出する上での
律速段階となる。したがって、5.8×4年間＝23.2名が最大
人数となる。
しかし、施設ごとに症例数の偏りがあり、実際には1年間に5人が徳島大学グループで研修可能な人数となる。